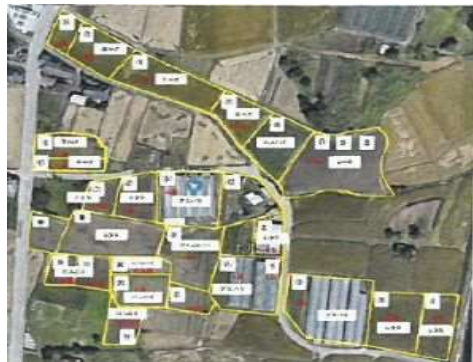


農福連携の取組事例(「農」主体)

タマアグリ株式会社 (福岡県筑後市)

～特例子会社による明るく楽しく仕事ができる環境づくり～



経営農地3.1ha



アスパラガス栽培

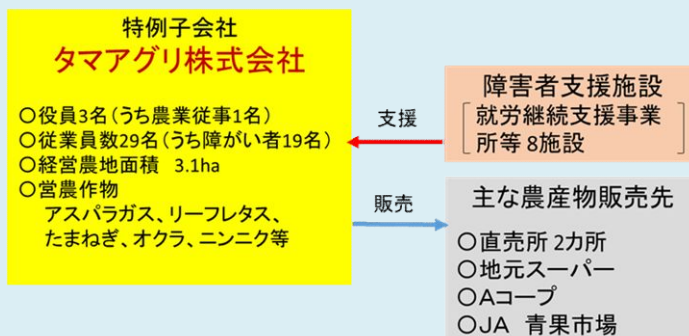


露地レタスの定植

経緯

- ・タマホーム株式会社(東京都)の子会社として、H21年に設立。
- ・市及び農業委員会の支援を得て、1haの休耕農地を借地。障がい者の周年雇用を前提に、アスパラなどを選定。ハウス施設等を整備し、身体・知的・精神障がいの人12名雇用。社員2名と農業に従事。
- ・R元年現在の経営面積は3.1ha。主な品目はアスパラガス、リーフレタス等。障がい者の雇用の拡大も進め、現在19名。

体制



取組内容

- ・トラクター等の使い方など農業の基本的なノウハウは、地元の農家に数年間委託して指導を受け習得。各作物の栽培方法等は普及センター等からの指導を受けている。
- ・農産物の販売先は、アスパラガス等はJA、ニンニクは契約栽培の委託先と直売所、水耕レタスその他は青果市場や直売所(スーパー、道の駅等)。
- ・障がい者は、障がい者就労支援事業所等サポート機関に登録されており、定期的に支援者会議を開催。アドバイスが得られる体制が整っている。

取組の評価

- ・休耕農地の有効活用など地域農業に貢献。朝市開催など市民とふれあう機会を設け、障がい者就労への理解が浸透。明るく楽しく仕事ができる環境を構築。
- ・障がい者支援組織等との連携により、各個人への指導やケアなどが充実。就労した障がい者の多くは定着。当社を退職後、新たな職場で活躍する障がい者もみられる。
- ・特別支援学校等からの職場実習等の受入。地元デイサービス事業所と連携した高齢者の有償ボランティアの受入など地域の社会福祉に貢献。

農福連携の事例（農産物の生産・加工・販売）
～特例子会社による明るく楽しく仕事ができる環境づくり～
タマアグリ株式会社（福岡県筑後市）

1 取組の概要

- ・福岡県筑後市にあるタマアグリ株式会社は、木造ハウスメーカーのタマホーム株式会社（東京都）の子会社として、平成 21 年に設立された会社。
- ・タマホームでは、障害者雇用促進法による法定雇用率を達成するため、一般事務職を中心に採用を進めたものの、社内の認知も少なく、雇用した障がい者も短期間で退職する状況にあった。このため、障がい者が明るくやりがいを持って仕事ができる労働環境を提供することがベストと考え、特例子会社（企業が障がい者の雇用を促進する目的で造る子会社）を新たに設立し、農業に参入することとなった。
- ・タマホームが筑後市発祥の企業であったため、筑後市に農業参入について相談したところ、市が策定した農業経営基盤強化の促進に関する基本構想に企業の農業参入を位置づけるとともに、市及び農業委員会が仲介を行うなど行政の積極的な支援もあって、1ha のまとまった休耕農地を借りることができた。
- ・生産品目は、障がい者の作業能力を踏まえた上で周年雇用を可能とすることを前提に、管理や収穫に比較的手間がかからないアスパラガスやリーフレタスなど数種類を選定。アスパラガス栽培用のハウス施設、出荷作業用施設等の整備を実施。身体・知的・精神障がいの人 12 名を準社員として雇用し、社員 2 名とともに生産を開始。
- ・なお、農業以外の事業としては、平成 22 年から、親会社の社員の名刺づくり・DM印刷・発送代行の印刷業務も開始。障がい者は印刷業務にも従事している。
- ・休耕農地の借地は逐次拡大し、令和元年現在の経営面積は 3.1ha。現在の主な品目はアスパラガス、リーフレタス、たまねぎ、オクラ、ニンニク等である。
- ・障がい者の雇用の拡大も進め、現在 19 名まで拡大。このうち 2 名はこれまでの勤務状況が評価され、正社員に移行し、農業に 1 名、印刷業に 1 名が従事している。障がい者の雇用に当たっては、人員の募集のほか、各個人への指導やケアなどについて、障がい者支援組織等と連携して行っている。
- ・生産した農産物の販売先は、アスパラガス、オクラ、露地レタスは J A、ニンニクは契約栽培の委託先と直売所、水耕レタスその他は青果市場や直売所（スーパー、道の駅等）である。また、一部は住宅販売の販促用として顧客に配られるなど、親会社のイメージアップにも寄与。
- ・平成 30 年 5 月より「タマアグリ(株)朝市」を毎月第 3 土曜日に開催し、障がい者が市民とふれあいながら野菜を格安で販売。また、特別支援学校等からの会社見学や職場実習を受け入れているとともに、地元のデイサービス事業所と連携し、高齢者に軽作業に従事してもらう有償ボランティアの受入など地域貢献活動を積極的に推進。

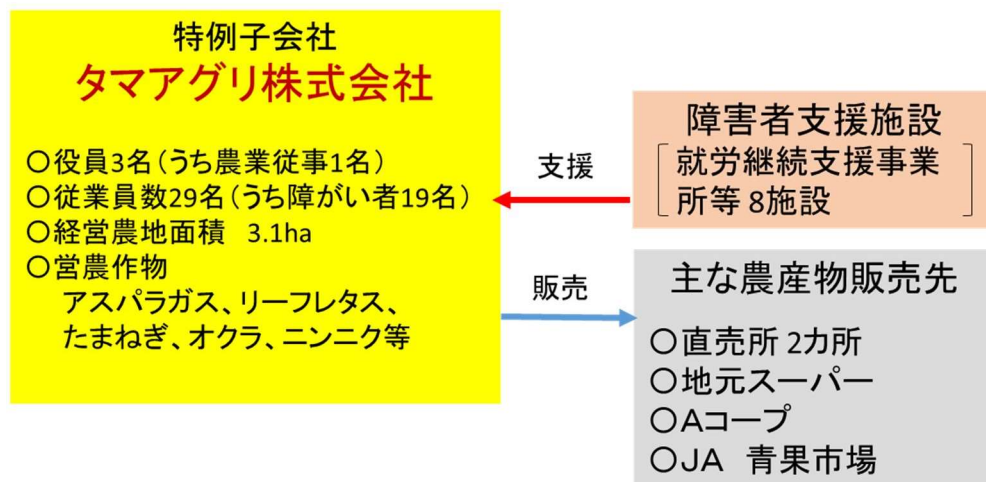
<農業経営の概要>※平成 30 年

経営農地面積：3.1ha

営農作物：アスパラガス、リーフレタス、たまねぎ、オクラ、ニンニク等

農産物販売高：1,350 万円（アスパラガス 590 万円、オクラ 160 万円、露地レタス 150 万円等）

タマアグリ株式会社の取り組み



2 運営状況

○社員 3 名

- ・農業従事の社員は 3 名であり、作付計画、日々の作業計画等の作成、販路開拓、現場での作業指導、トラクター等の機械作業等を分担して担当。

○障がい者 18 名（身体障がいの人 2 名、知的障がいの人 12 名、精神障がいの人 4 名）

- ・準社員としての雇用条件等は以下のとおり。なお、正社員は会社規定の賃金、勤務時間等が適用。
雇用条件：最低賃金以上の時給を支給。なお、自力で通勤できる（最寄り駅からは当社が送迎）ことが条件。
就業時間：就業日は月～金の週 5 日。就業時間は午前 8 時から午後 3 時までであり、休憩が 1 時間で実作業時間は 6 時間。
作業場所：会社隣接する作業施設及び会社から車で 10 分程度のほ場であり、ほ場への移動は社員が送迎。

○営農技術の習得

- ・設立当初から数年間、トラクター等の機械の使い方など農業の基本的なノウハウを地元の農家に委託して指導を受け、習得。また、普及センター、肥料販売店から各作物の栽培方法等の指導を受け、習得。

○障がい者支援組織等との連携

- ・当社が雇用している障がい者は、障がい者就労支援事業所等サポート機関（現在 8 施設）に登録されており、採用面接の際にも、これらの支援機関の職員が面接及び実習に同行。

- ・3ヶ月に1回、当社がこれら支援機関を参集した支援者会議を開催し、各障がい者が3ヶ月間行ってきた作業状況と今後3ヶ月間の作業予定について説明し、各障がい者についての情報交換を行っている。また、就労に関し問題が生じた場合には、これらの支援機関に相談し、アドバイスが得られる体制が整っている。

3 作業状況

各作物の作業期間と障がい者が従事している作業は下表のとおりである。

作物	作業期間	障がい者が従事している作業
アスパラガス	通年	土づくり（堆肥の散布）、立茎、葉落し、摘芯、追肥、火炎処理、消毒、内張り、収穫、出荷作業
水耕栽培レタス	通年	播種、定植、収穫、出荷作業
リーフレタス	9月～3月	土づくり（堆肥の散布）、播種、収穫、出荷作業
たまねぎ	10月～5月	土づくり（堆肥の散布）、マルチ張り、苗の定植、追肥、消毒、収穫、出荷作業
オクラ	5月～9月	土づくり（堆肥の散布）、播種、間引き、収穫、出荷作業
ニンニク	10月～5月	土づくり（堆肥の散布）、播種、追肥、消毒、芽の収穫、出荷作業 ※収穫作業は、契約栽培先に依頼し機械で収穫）
スプラウトにんにく	通年	皮むき、播種、収穫、出荷作業

このうち、作業量の多いアスパラガス、オクラ、水耕栽培レタス、スプラウトにんにくの作業状況は以下のとおりである。

○アスパラガス

- ・アスパラガスのハウス栽培（3,100 m²）のノウハウは社員が普及センター及び肥料販売店からアドバイスを受けながら習得。籾殻牛糞堆肥の投入による土作りを行い、有機質肥料を主体とした栽培を行っている。
- ・収穫作業の実施時期は、春芽2月～4月、夏芽6月～10月であり、この間、障がい者6名と社員1名が毎日8時～15時の間作業に従事。30 cm程度に伸びた茎を、専用のハサミを用いて収穫。障がい者が初めて収穫する場合は、慣れるまで計測棒（27 cm）を用いる場合もある。
- ・出荷作業は、
 - ①選別機を用いて、茎の太さにより、2L、L、M、Sに選別し、
 - ②選別されたものを1kgで計量し、一束にまとめ、出荷用コンテナ入れる
 作業であり、これらの作業を①の作業を1名、②の作業を2～3名で分担して行っている。

○オクラ

- ・オクラ栽培（1,700 m²）のノウハウは社員が普及センターのアドバイスを受けながら習得。籾殻牛糞堆肥

の投入による土作りを行い、有機質肥料を主体とした栽培を行っている。

- ・最も労力を要する収穫作業の実施時期は、7～9月であり、この間、障がい者8名と社員1名が毎日6時～12時の間作業に従事。10 cm程度になったオクラを、園芸用のハサミを用いて収穫。障がい者でも収穫作業を行いやすいよう園芸用のハサミに収穫の基準となる長さの物差しを取り付け収穫してもらっている。また、出荷作業は、実をL・M・Sで仕分けし、仕分けされたオクラをLは8本、Mは10本、Sは12本をネットの袋に詰める作業を行っている。

○水耕栽培レタス

- ・簡易的な水耕栽培バタビアレタス（400 m²）のノウハウは施設販売会社からの支援を得て習得した。
- ・障がい者が従事している作業は播種、定植、収穫、出荷作業であり、これらの作業に障がい者2名が1日3～4時間従事。
- ・夏場にハウス内の温度が上がり過ぎるため、暑さに強い品種を導入するとともに、ハウスの屋根に水を流すなどの対策を実施。

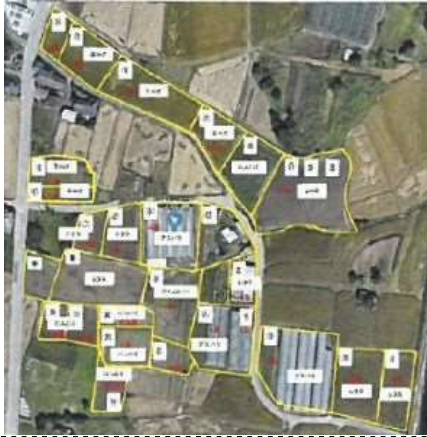
○スプラウトにんにく

- ・スプラウトにんにく（発芽直後の新芽があるにんにく）は、LED照明と空調施設を備えた15 m²ほどの室内で行っている。発芽させるにんにくは市販のものを使用。そのノウハウはほかの事業所への見学や自社で研究して習得。
- ・障がい者が従事している作業はにんにくの房を鱗片に分け、皮むき、水の入った栽培用トレイに並べる、収穫、袋詰め作業である。1週間～10日ほどで収穫でき、障がい者2～3名が従事している。

4 評価

- ・休耕農地の有効活用など地域農業に貢献するとともに、市民とのふれあいの機会を設けることで、タマアグリの取組への理解の浸透を図りつつ、障がい者が明るく楽しく仕事ができる環境を構築している。
- ・障がい者支援組織等との連携により、各個人への指導やケアなどが充実し、当社に就労した障がい者の多くは定着しているとともに、2名が正社員となっているほか、当社を退職後、新たな職場で活躍する障がい者もみられる。
- ・特別支援学校等からの会社見学や職場実習の受け入れているとともに、地元のデイサービス事業所と連携し、高齢者に軽作業に従事してもらう有償ボランティアの受入を積極的に推進するなど地域の社会福祉に貢献。

活動状況の写真



(経営農地 3.1ha)



(アスパラガス栽培ハウス)



(レタスの水耕栽培ハウス)



(露地レタスの定植)



(毎月第3土曜日に開催される朝市)



(高齢者の有償ボランティア受入)